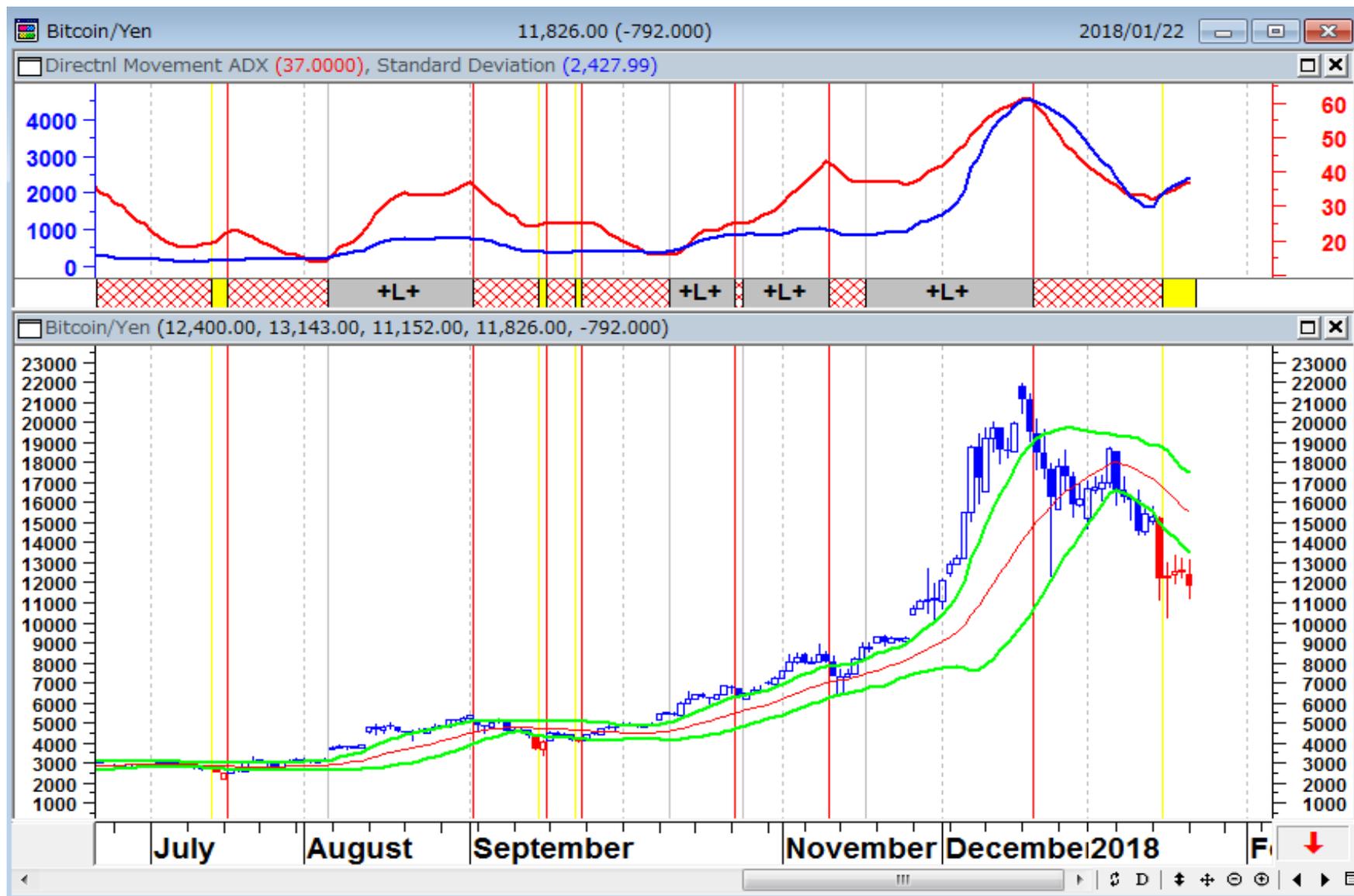


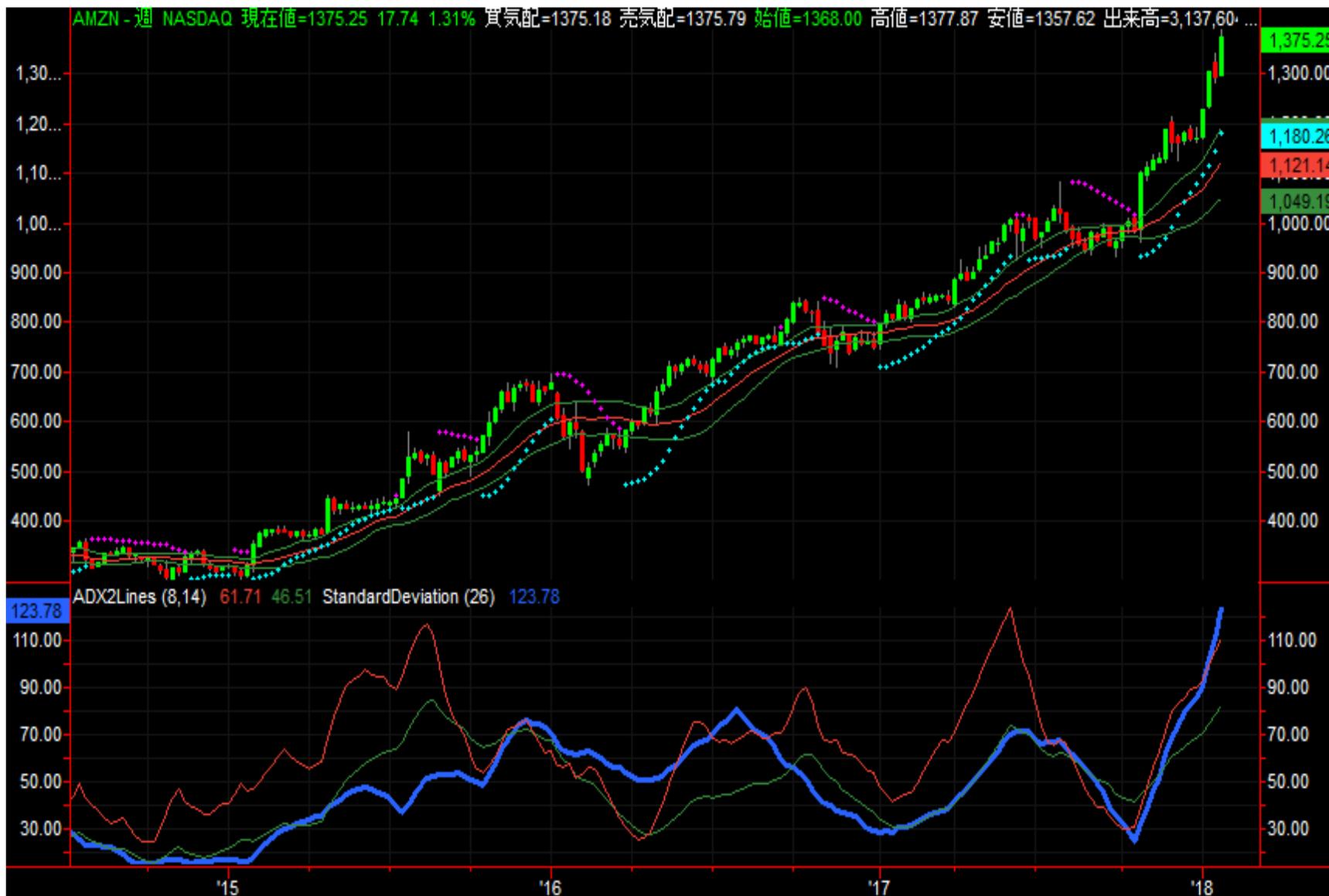
ビットコイン/円 (日足)



ネットフリックス（週足）標準偏差ボラティリティモデル



アマゾン (週足) 標準偏差ボラティリティモデル



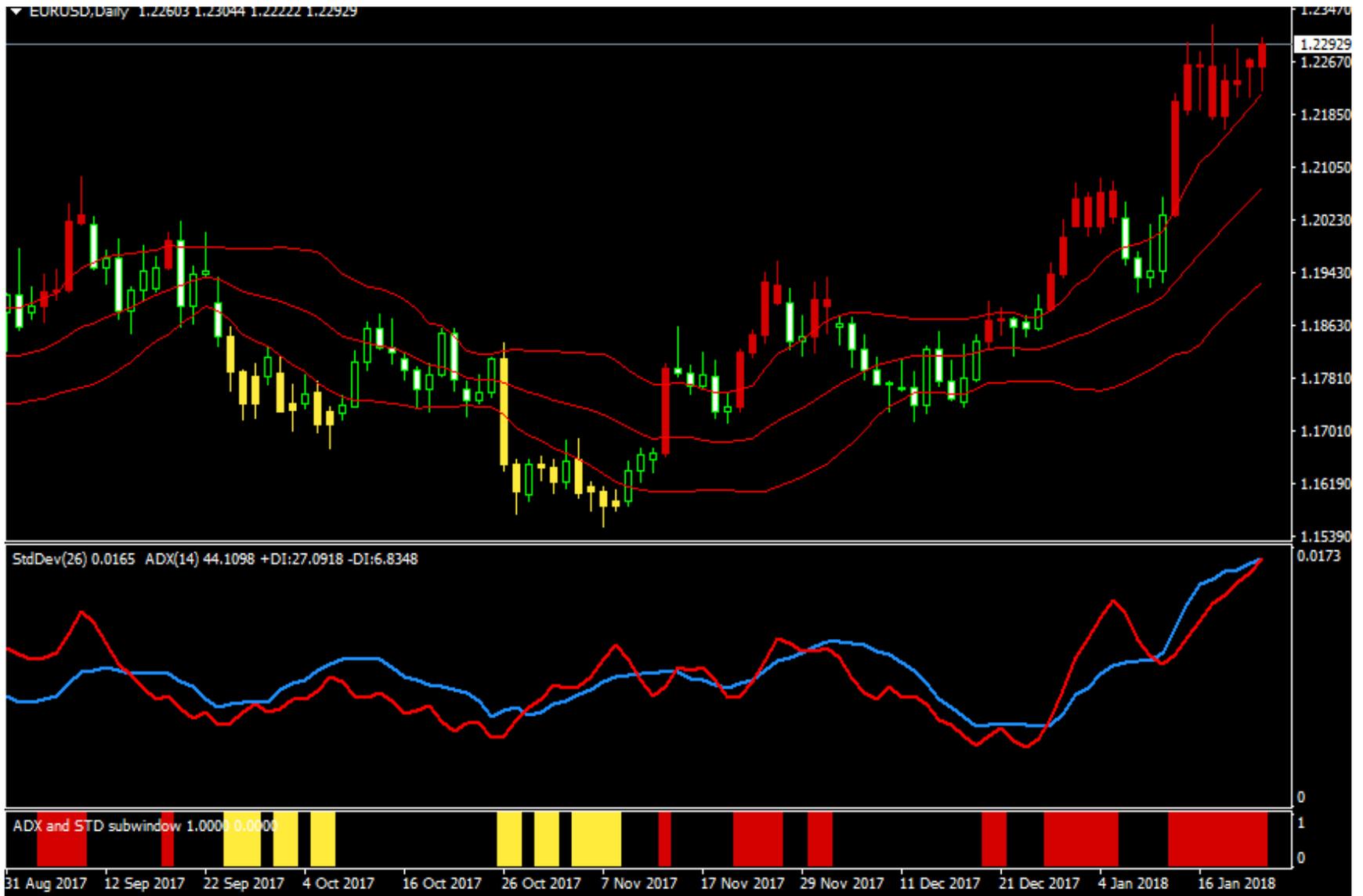
アルファベット（週足）標準偏差ボラティリティモデル



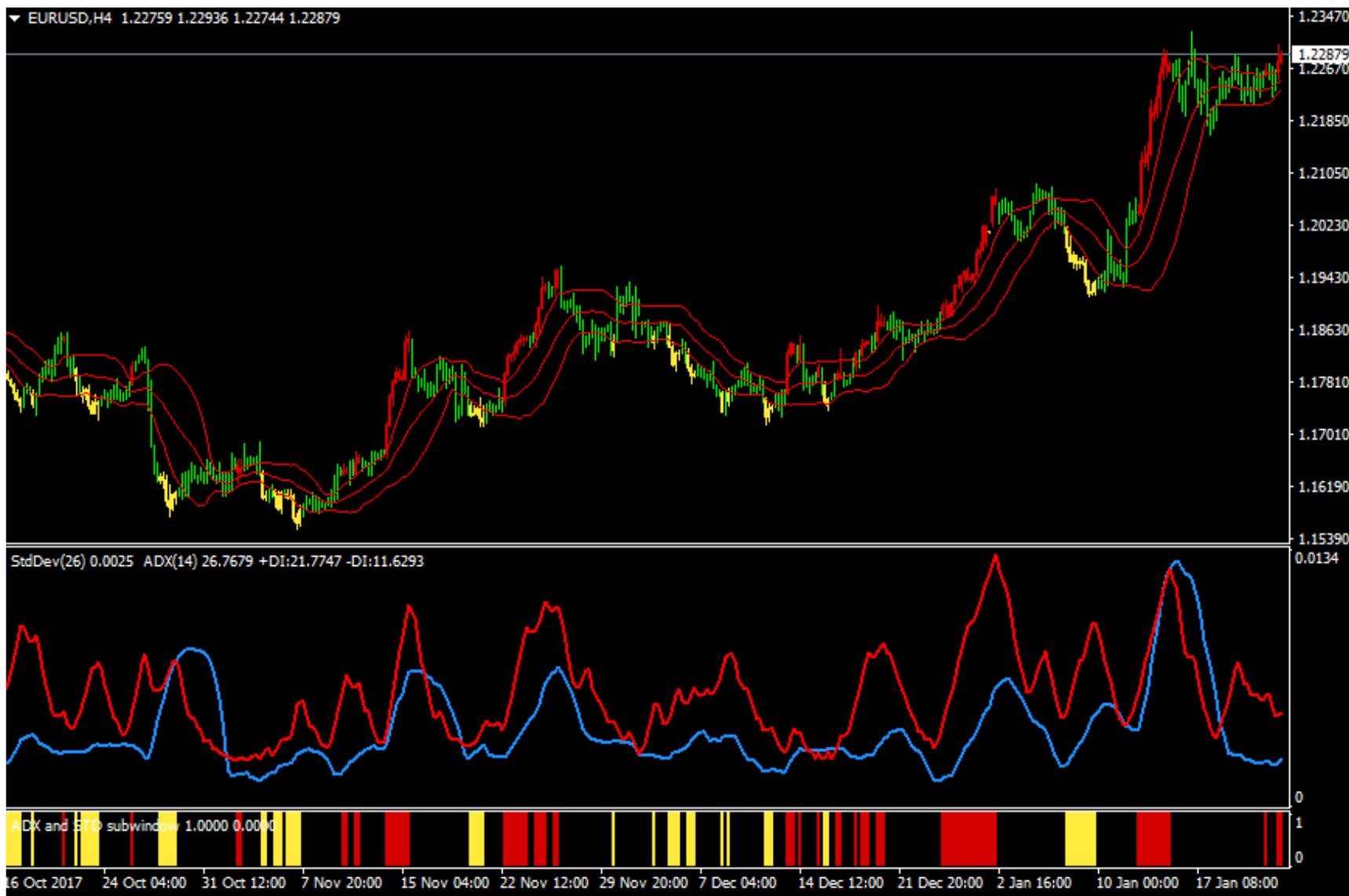
ユーロ/ドル（日足）と波動カウント



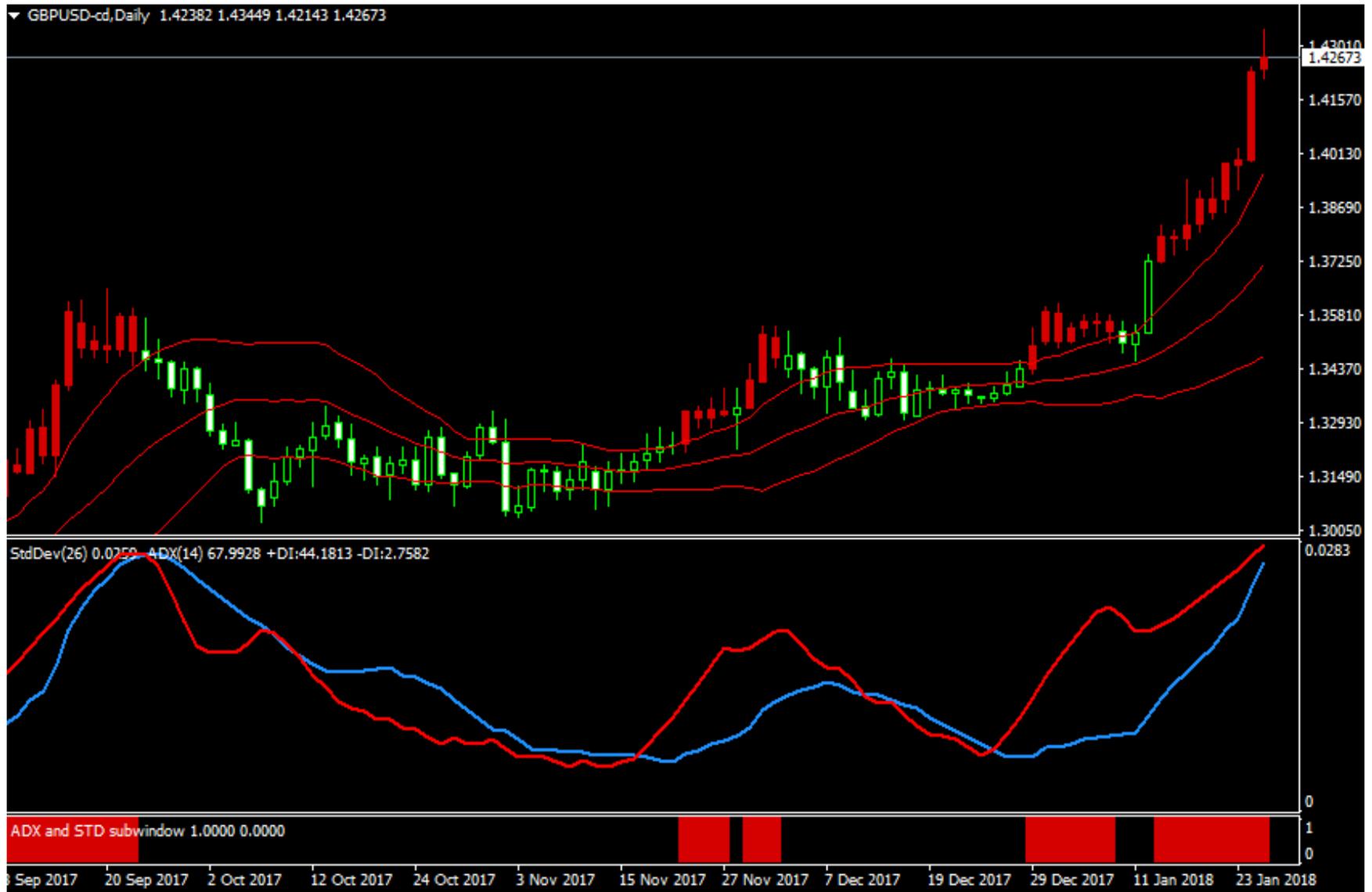
ユーロ/ドル（日足） 標準偏差ボラティリティモデル



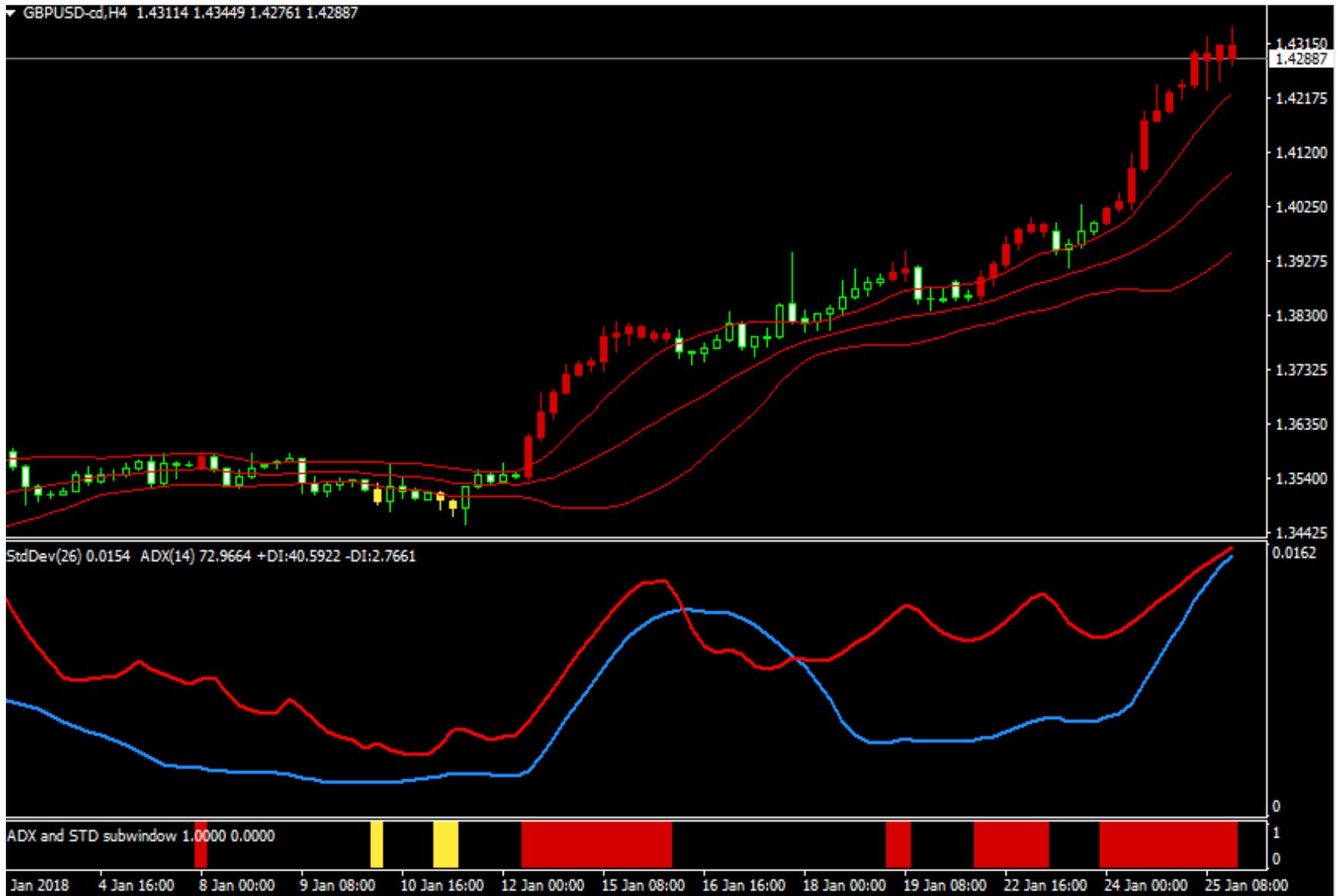
ユーロ/ドル（4時間足） 標準偏差ボラティリティモデル



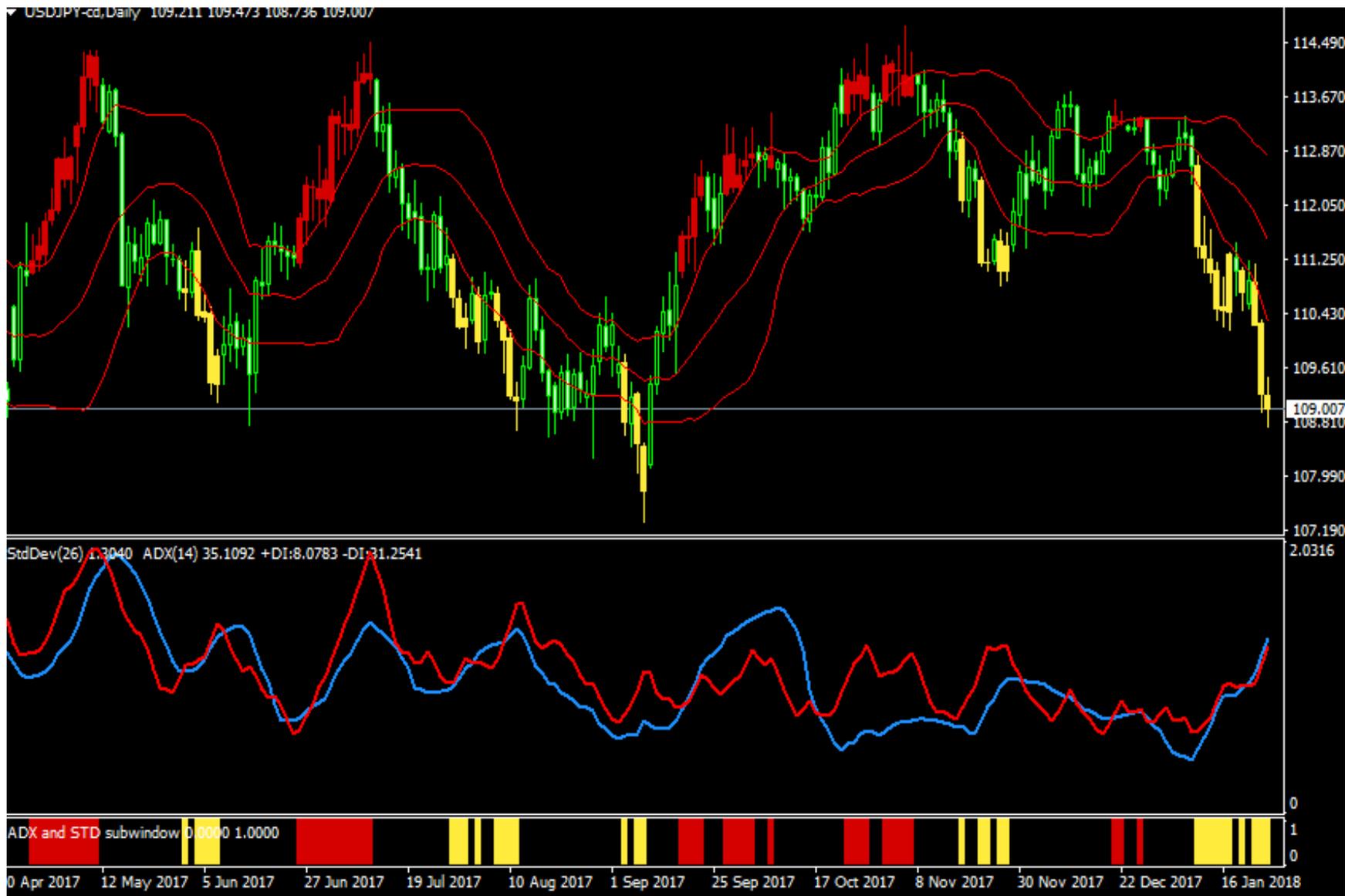
ポンド/ドル（日足） 標準偏差ボラティリティモデル



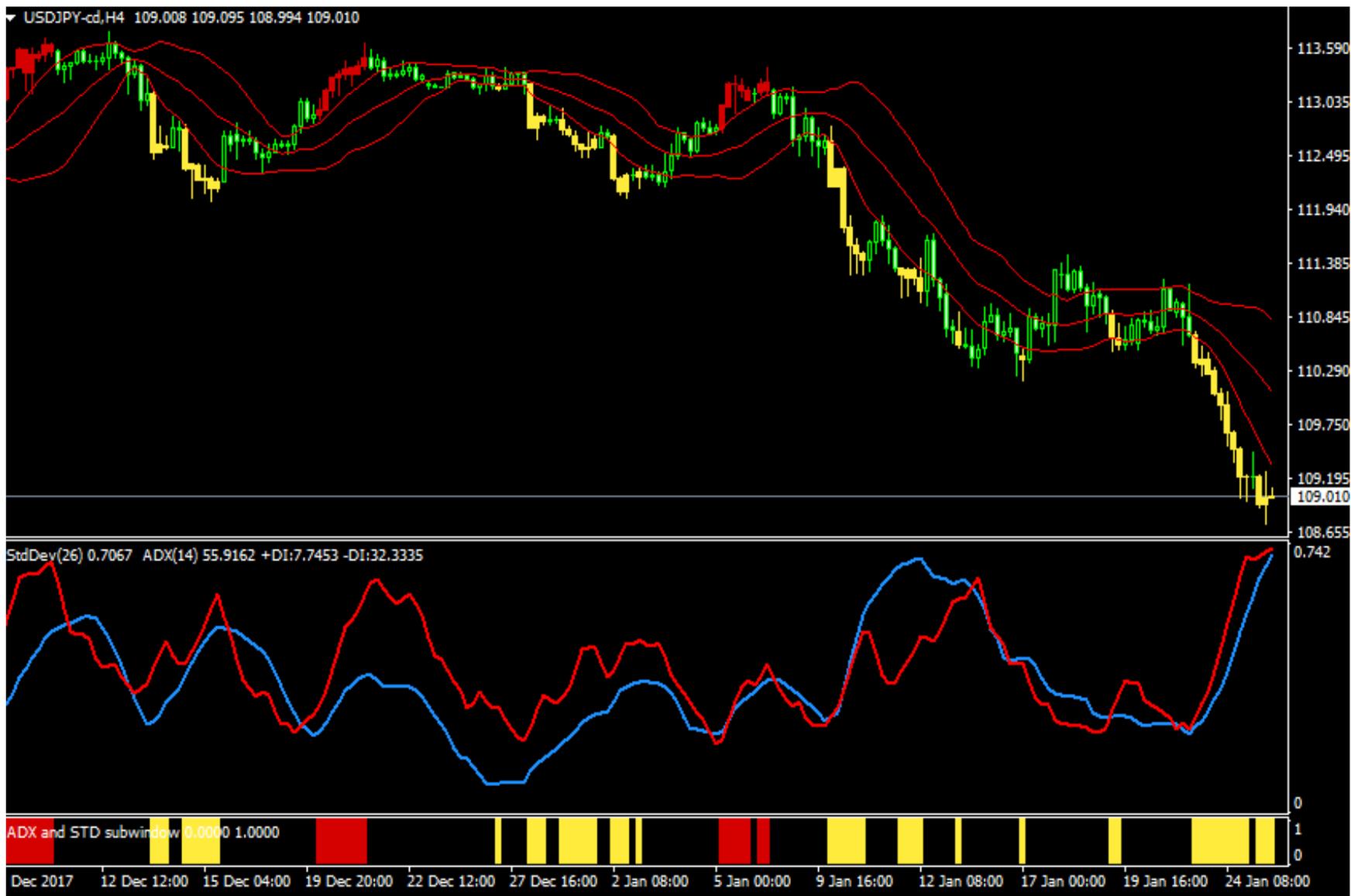
ポンド/ドル（4時間足） 標準偏差ボラティリティモデル



ドル/円 (日足) 標準偏差ボラティリティモデル



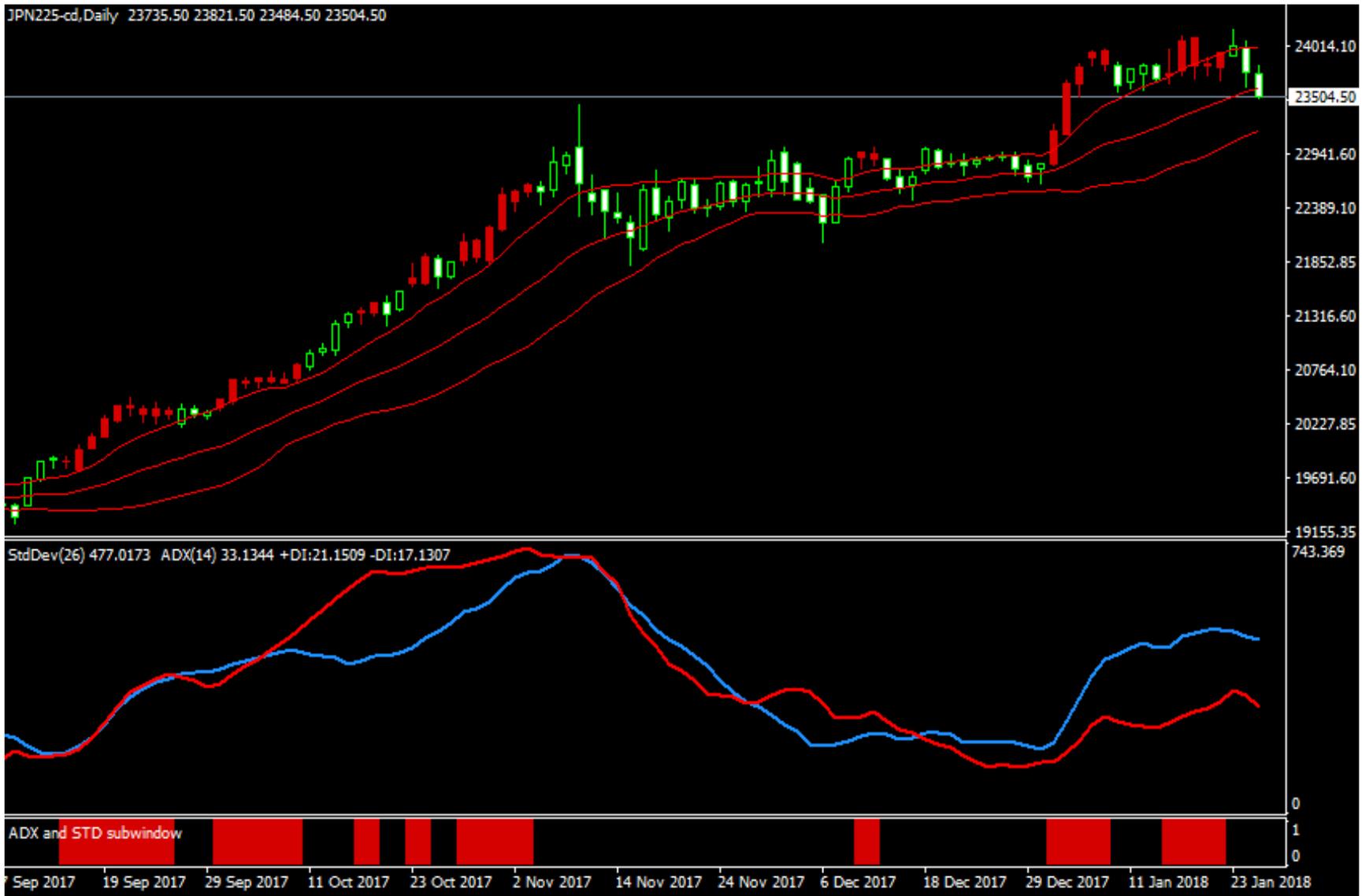
ドル/円 (4時間足) 標準偏差ボラティリティモデル



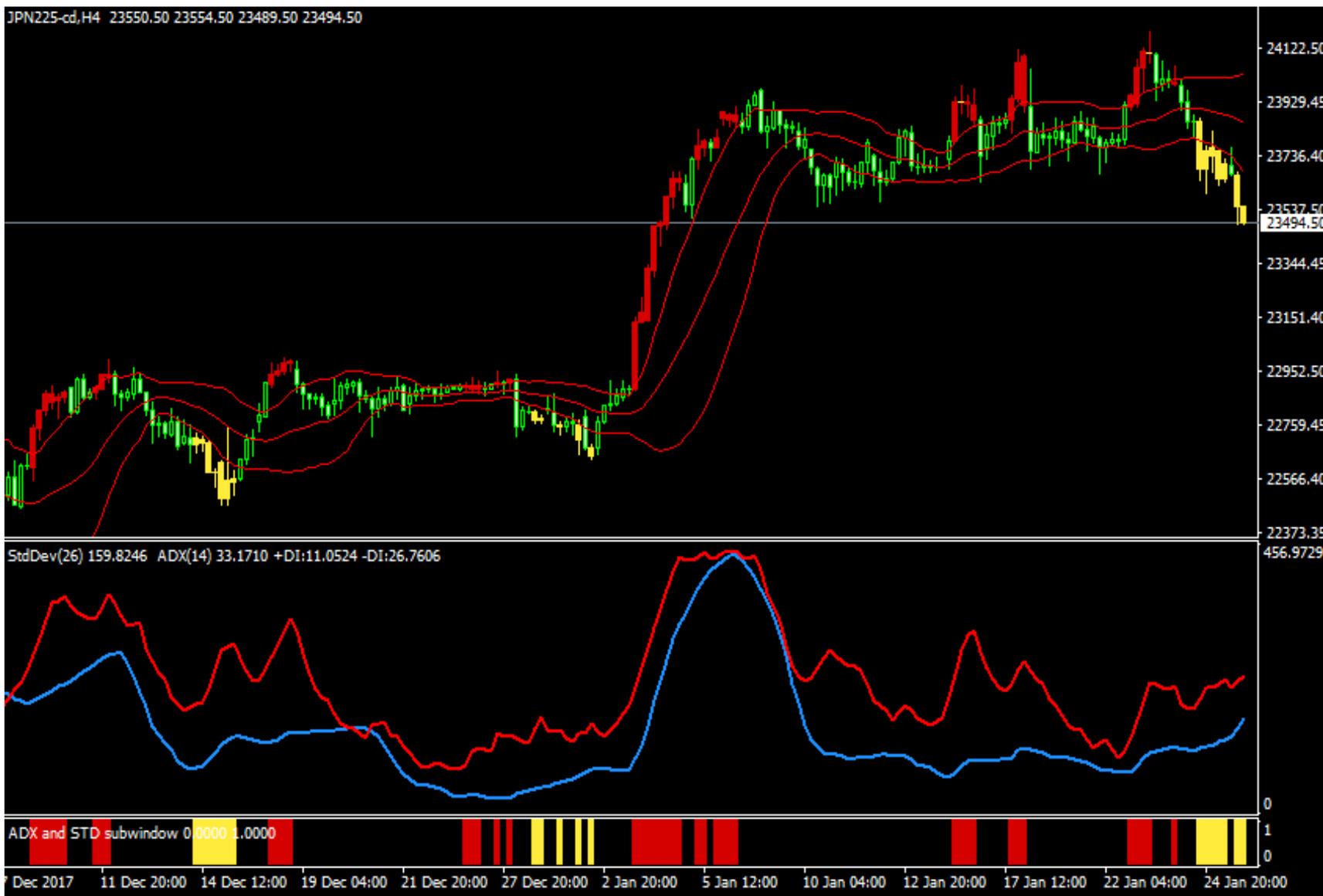
ドル/円 (日足) 52日ボリンジャーバンド



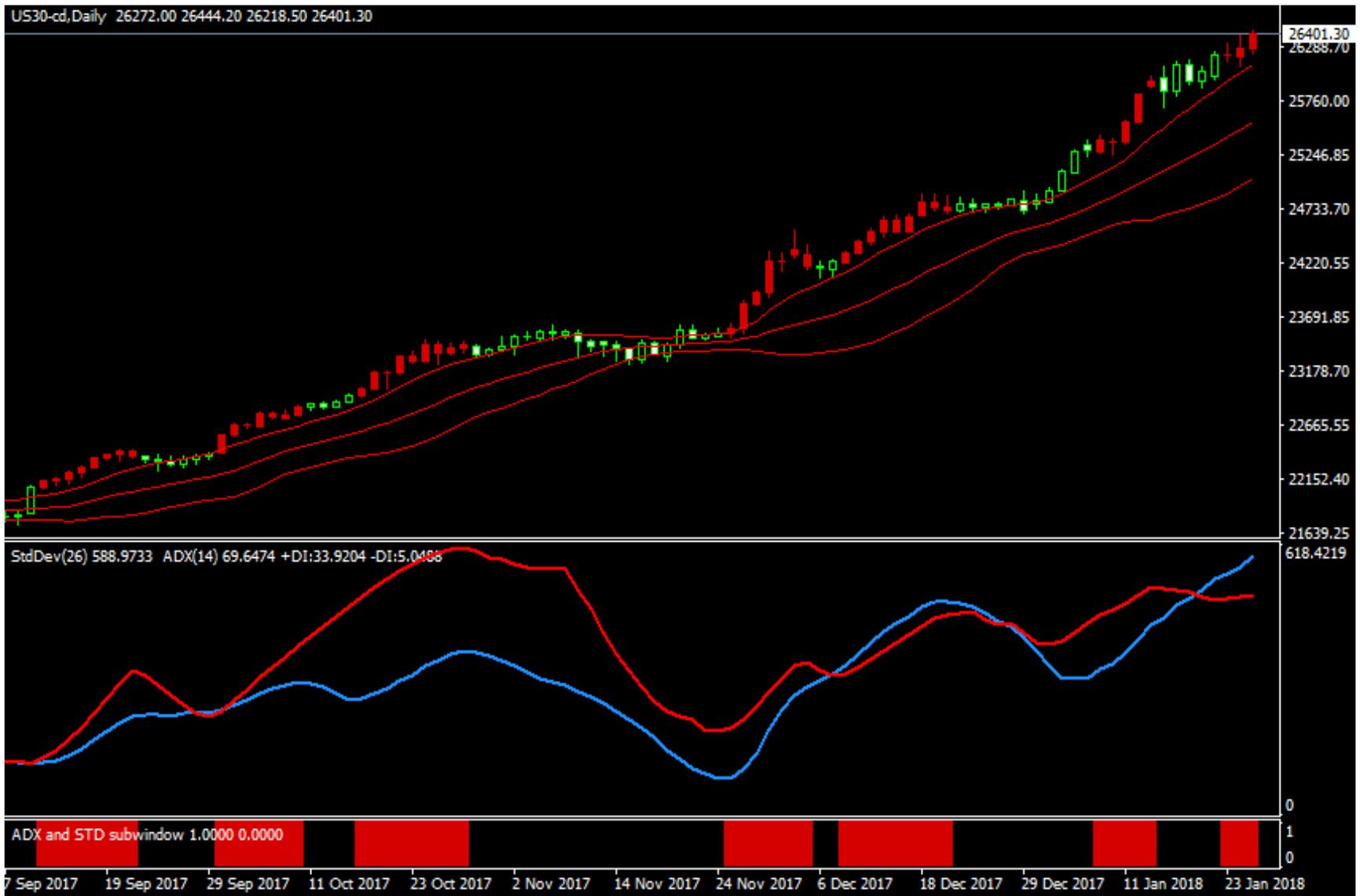
日経平均CFD（日足） 標準偏差ボラティリティモデル



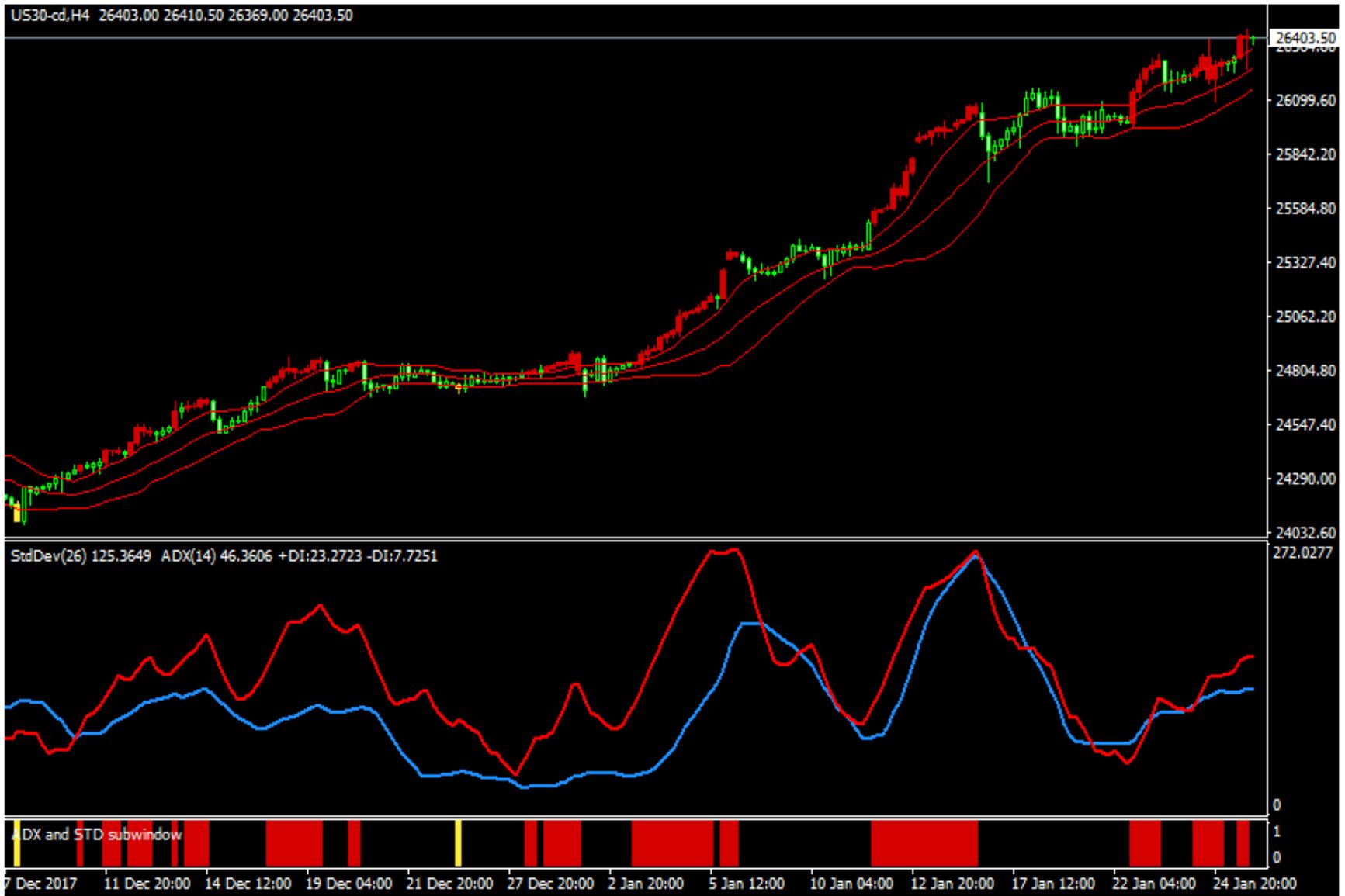
日経平均CFD（4時間足） 標準偏差ボラティリティモデル



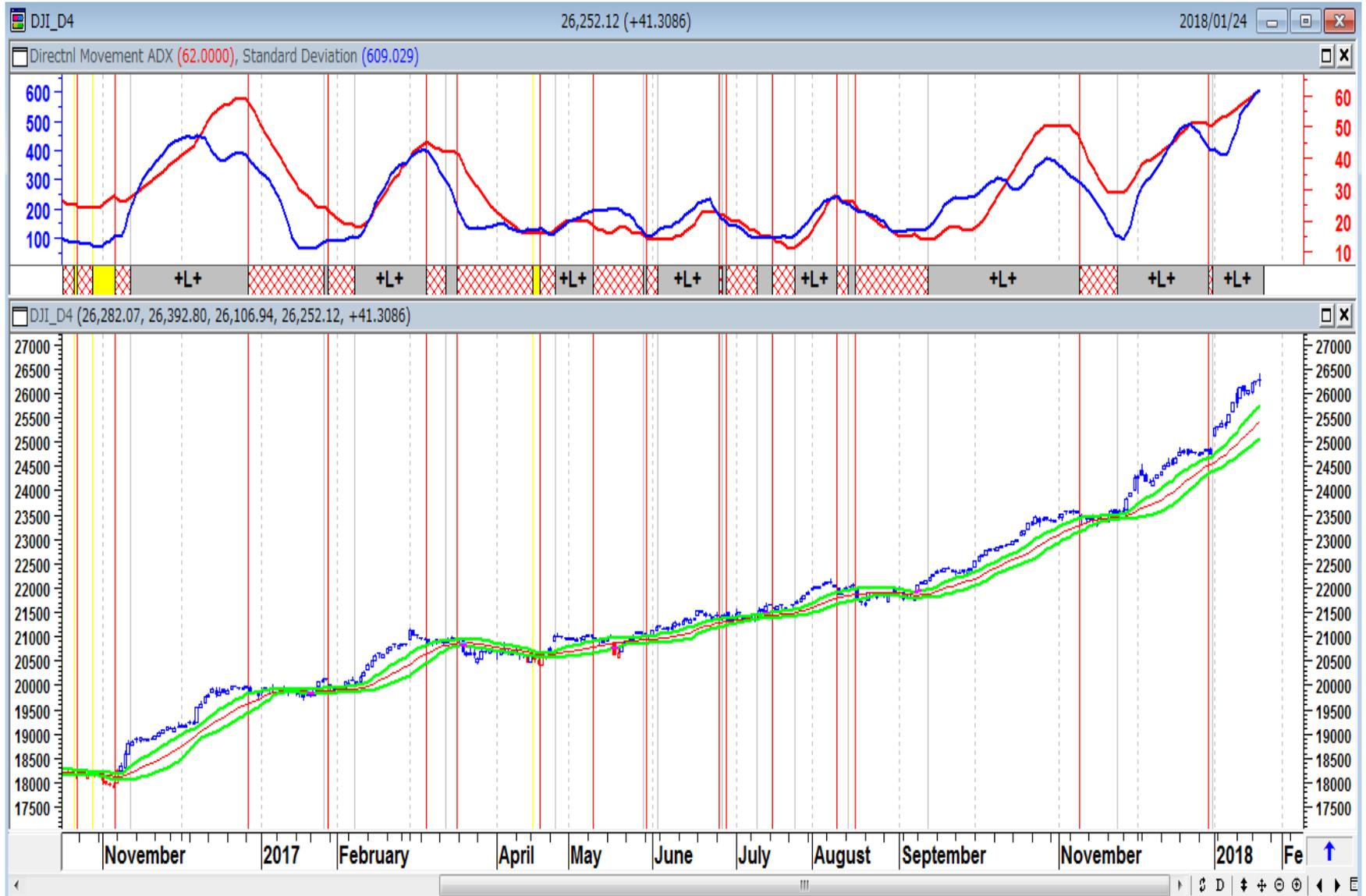
NYダウCFD（日足） 標準偏差ボラティリティモデル



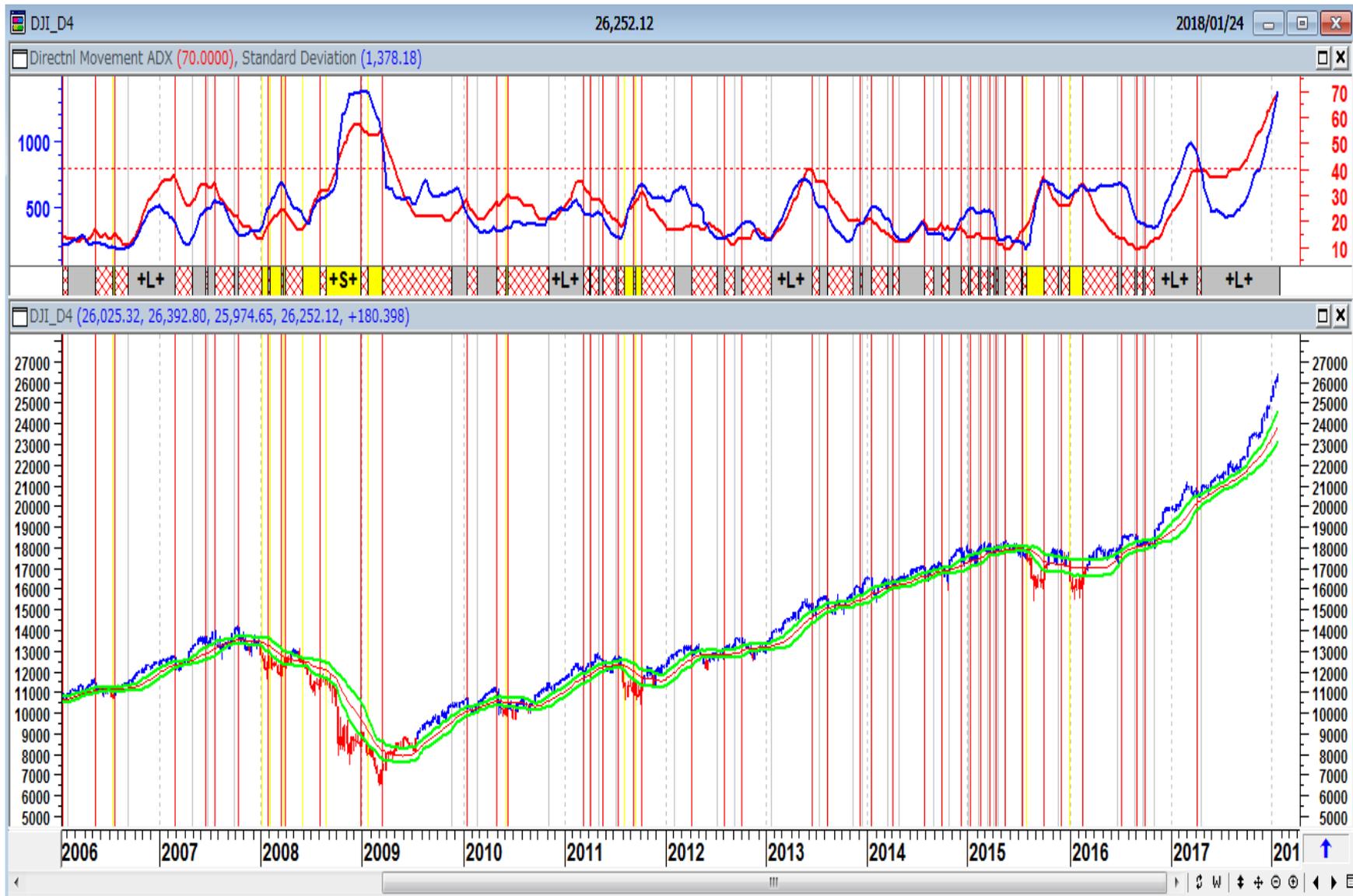
NYダウCFD (4時間足) 標準偏差ボラティリティモデル



NYダウ (日足)

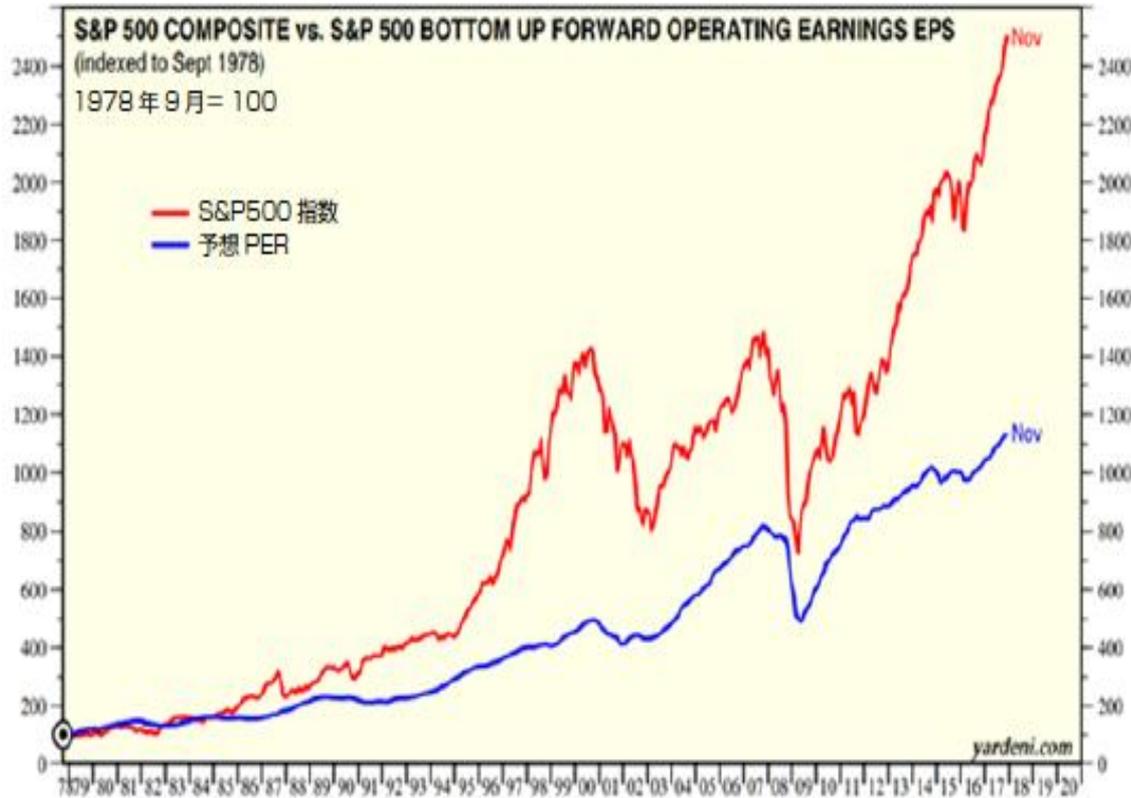


NYダウ (週足)



S&P500指数と予想PER（1978–2017年11月）

S&P500 指数と予想 PER（1978–2017年 11月）



出所：Ed Yardeni, www.yardeni.com

1978年以降のS&P 500と構成企業の収益を比較したもの。株価の上昇が企業収益の増加を大幅に上回っているのが一目瞭然である。この超越した成績の一因として、金利が1981年以降、長期にわたって低下したことが挙げられる。事実、金利を考慮したFRB（米連邦準備制度理事会）の株式市場評価モデルでは、米国株が割安で評価されている。しかし、抑えておくべきは、金利の構造的低下が企業収益にも追い風となることだ。株価だけではない。

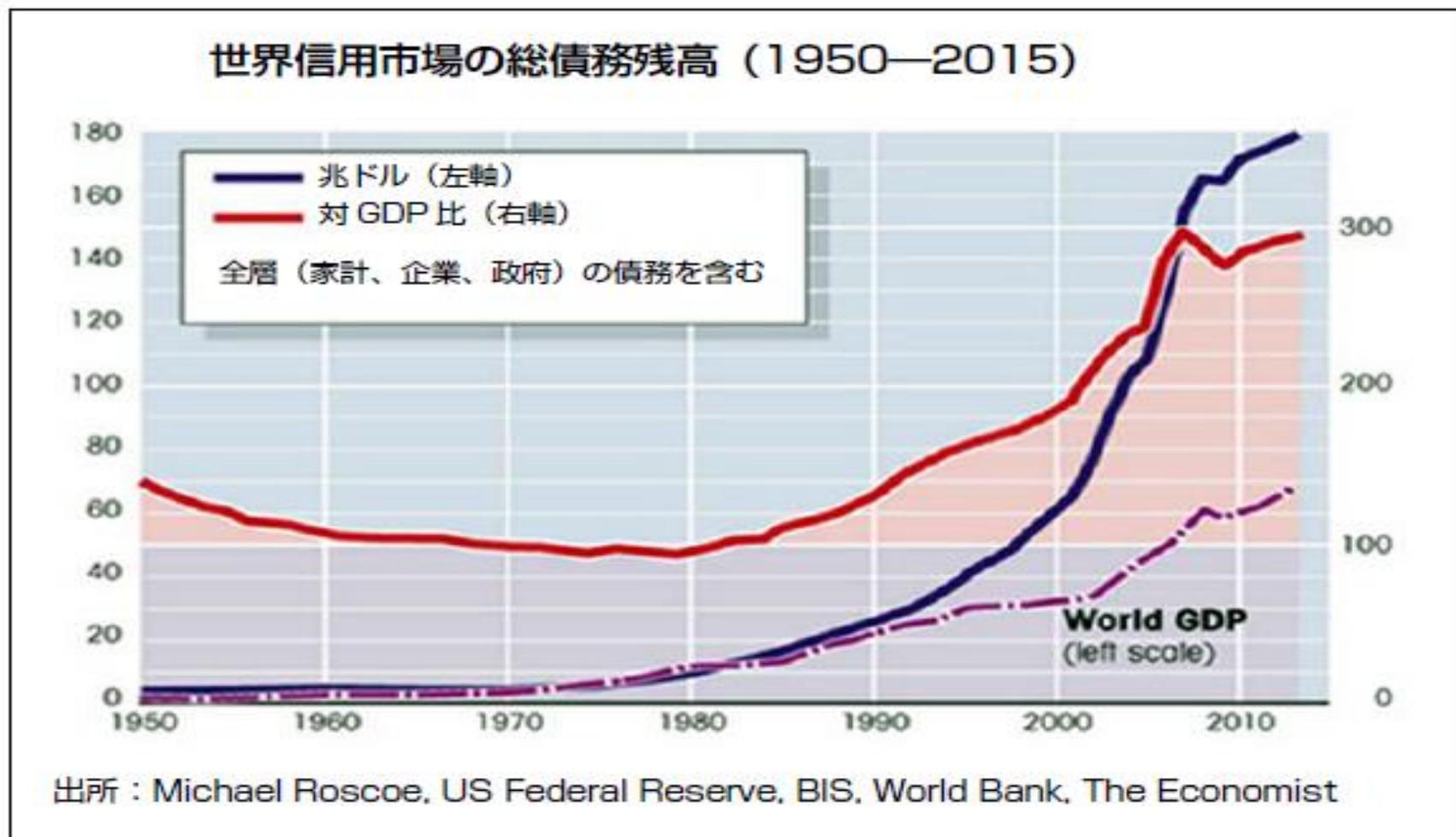
出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート1月号「将来の資産デフレが実体経済に及ぼす影響」・国内代理店パンローリングの掲載許可をとって掲載

S&P500総合指数の購入に必要な労働時間（1964-2017）



出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート1月号「将来の資産デフレが実体経済に及ぼす影響」・国内代理店パンローリングの掲載許可をとって掲載

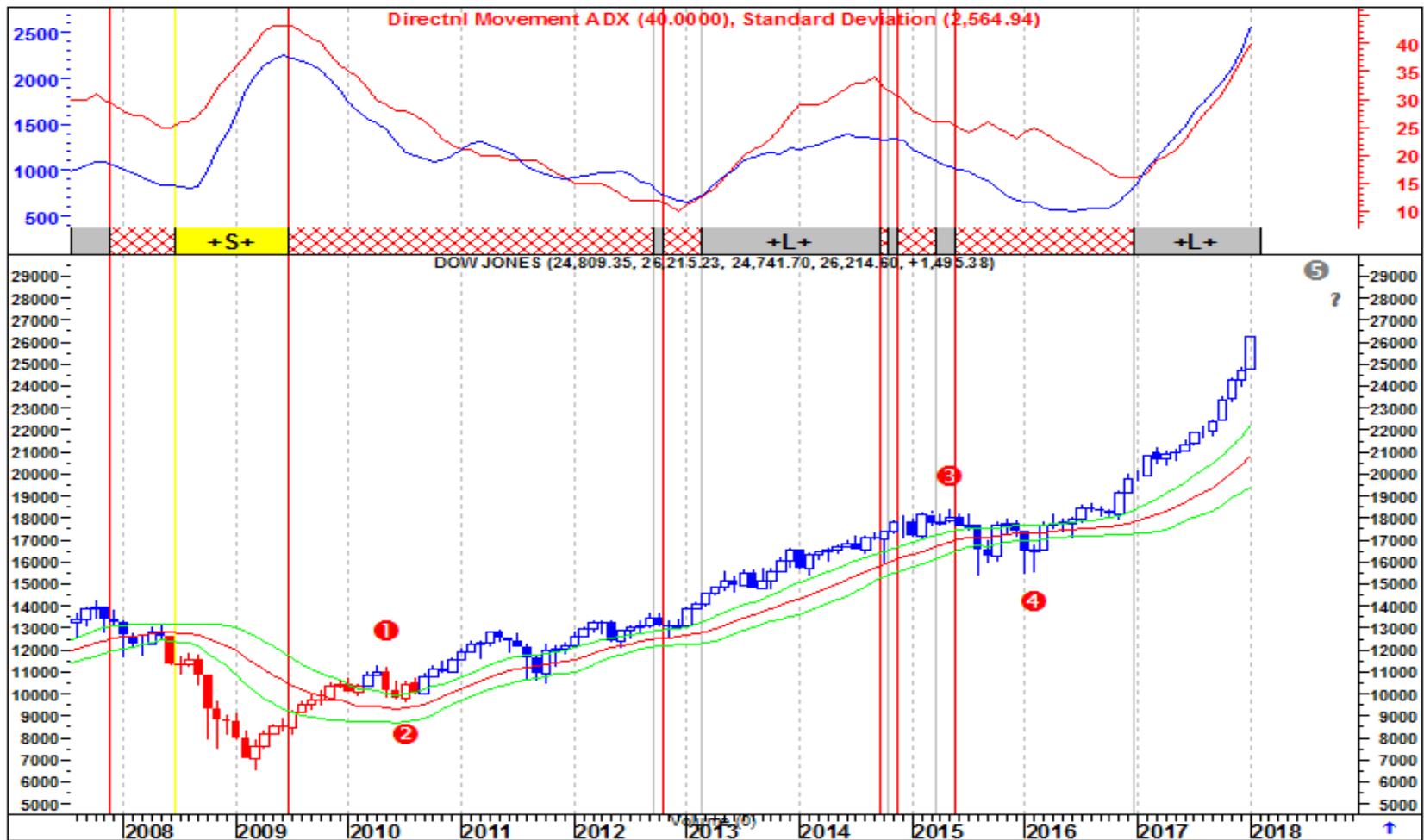
世界信用市場の総債務残高（1950－2015）



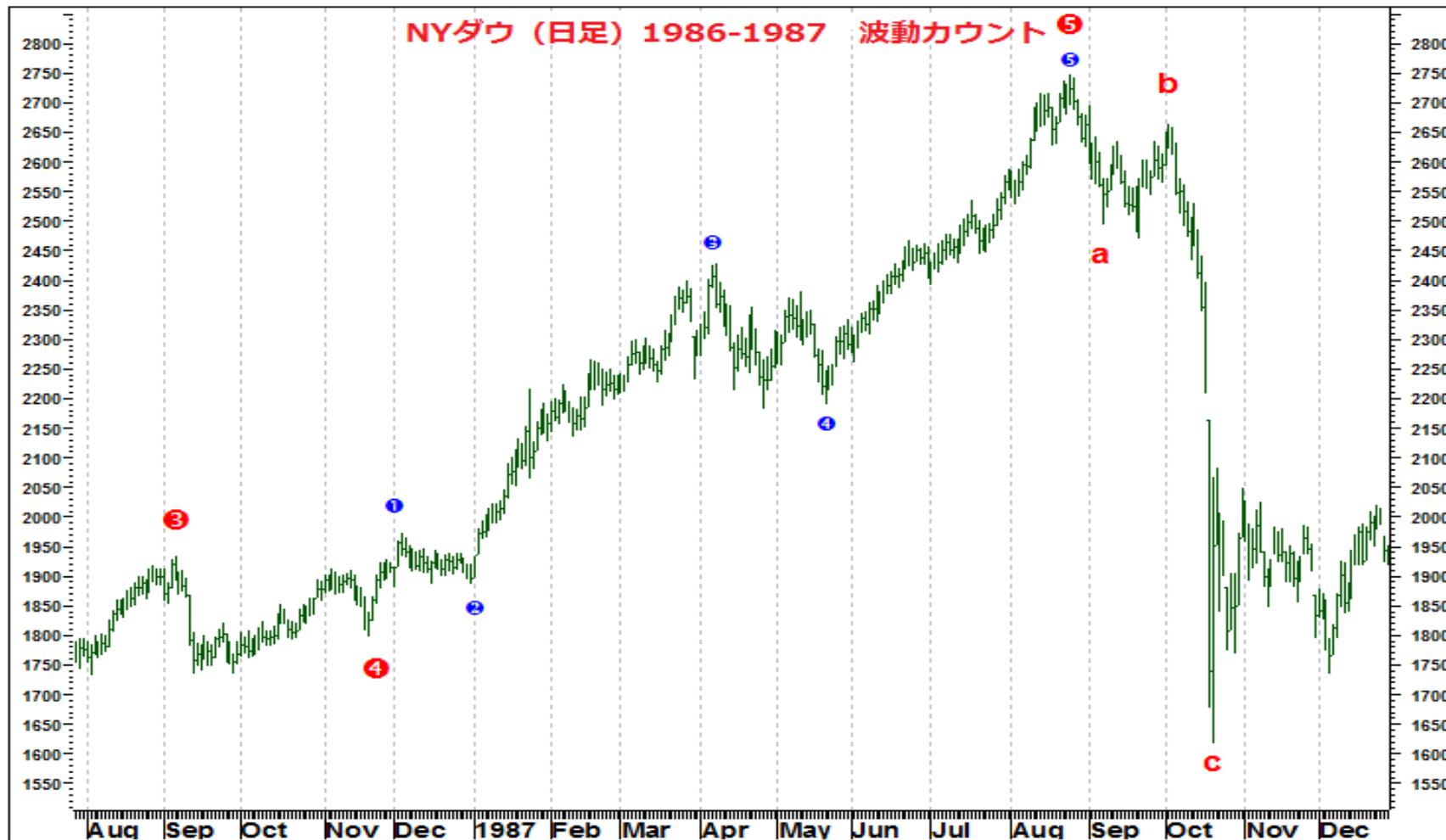
データは2015年までだが、それ以降も世界信用市場の総債務残高とその対世界GDP比は著しい上昇をみせている。事実、総債務残高の対GDP比は2007年のピーク時よりもさらに50%近く増えた

出所：マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート1月号「将来の資産デフレが实体经济に及ぼす影響」・国内代理店パンローリングの掲載許可をとって掲載

NYダウ（月足） 2008-2018と波動カウント



NYダウ (日足) 1986-1987 波動カウントとブラックマンデー



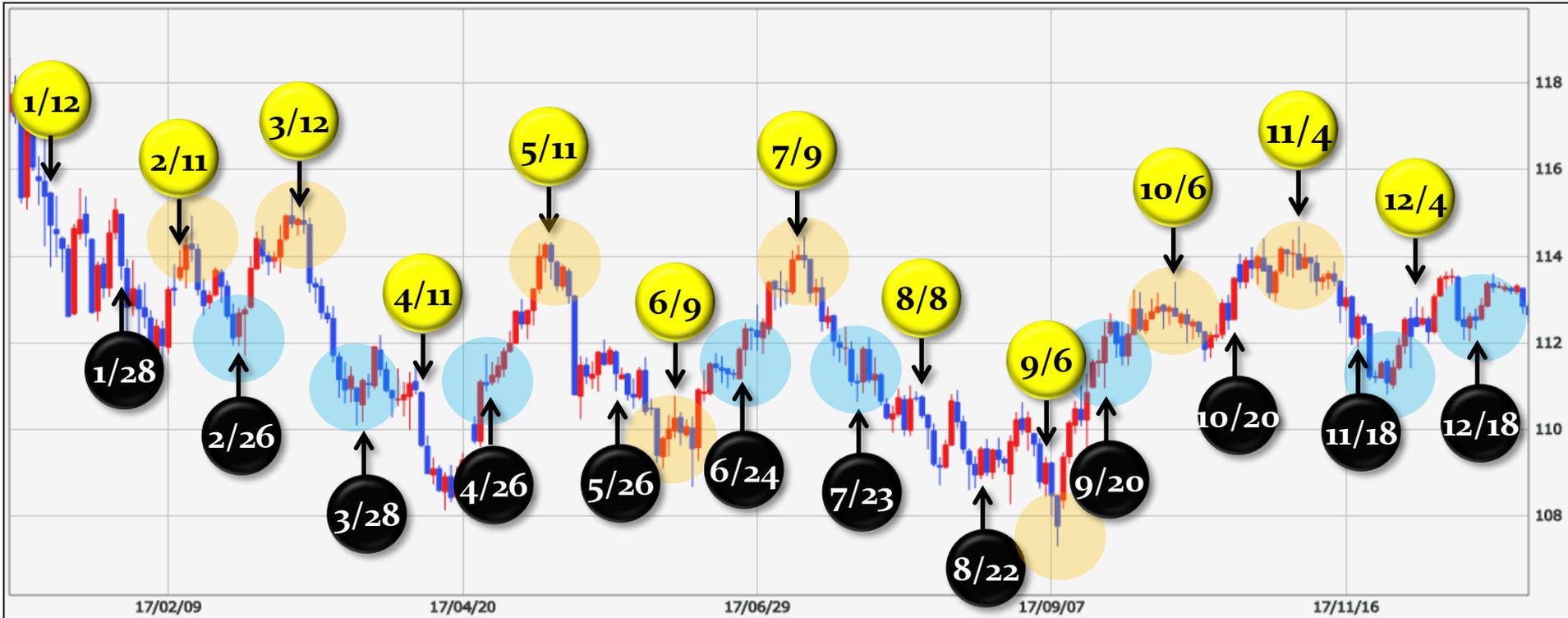
米10年国債金利 (週足)



2017年

米ドル/円・日足チャート

期間:2017/1/3~12/29



※黄色丸:満月、黒色丸:新月[日付=該当日]

※該当日が土日の場合は、翌営業日を対象としています。

出所:M2J FX チャート、
国立天文台(NAOJ)